

プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

コンゴ民主共和国 カンボブ地域開発プログラム(ZAR-185919)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

カンボブ地域開発プログラム(以下、ADP)では、
農家30世帯で構成されている農業グループを支援しています

チャイルド・ストーリー



チャイルドのカスムヤちゃんと
農業を営むお母さん



「私はワールド・ビジョンを通して支援を受けている12歳の女の子です。名前はカスムヤです。私の家族は貧しく、学校に通うことができませんでした。父は亡くなり、母は農業を営んでいます。ワールド・ビジョンの支援により受け取った作物の種や肥料のおかげで、収穫量が増えました。収穫した作物を売ることによって、学費を払うことができるようになり、学校に通えるようになりました。ワールド・ビジョンによる直接的な農業支援は終了しましたが、母はその後も農業を続け、私は学校に通うことができます。今は学校が休みで、9月から新学期が始まります。勉強をしっかりと、大学まで行けたらいいなと思っています。私たちのコミュニティを支援してくれるワールド・ビジョンとスポンサーに感謝します」

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ

カンボブ地域より、皆さまの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。皆さまのご支援により、2013年度もさまざまな活動を行うことができました。

農業組合では農家の人々の能力開発の支援を行い、自分たちで肥料を購入することができるようになりました。また貯蓄の方法や計画的な支出を学び、栄養バランスのよい食事作りに欠かせない製粉を購入することで、子どもたちの健康状態を向上させることができました。ほかにも、貯蓄によって学費を払うなど、子どもたちの教育問題が解決されることが期待されます。

皆さまのご支援により、地域の状況を改善し、前へ進むことができました。カンボブ地域、そしてADPスタッフは、スポンサーの皆さまのご支援にとっても感謝しています。ご支援をありがとうございます。

ジャン・デューイー・ムシツ (カンボブ ADP マネージャー)



農業・生計向上プロジェクト

収穫や収入につながる農業組合の取り組み

ADPでは、食の安全の確保に向けた新たな試みとして、150エーカーの現場学校^{*}設立を支援し、農民参加型で実際の農場を学びの場とした農業技術の普及を目指しました。今年度は、オクラや白菜、キャベツ、トマト、ナスを栽培し、販売を行いました。作物の収穫は家族の収入向上に役立っています。地域の貯蓄グループでは、収穫で得られた売上げを、さらに活動を強化するために投資し、収入をグループ内で再分配しています。また、農業組合のメンバーが養蜂に関する知識や技術を深めることにより、カンボブ地域では薬効がある貴重な蜂蜜を手に入れるために遠くまで出かける必要がなくなり、栄養価の向上にも役立っています。

さらに、農業収穫物の貯蔵施設の建設を支援しました。この貯蔵施設により、食物を安全かつ適切に管理できるようになり、売る時期を調整することで収益を増やすこともできるようになりました。

^{*}農業技術の普及を目指す農民現場学校



採蜜前の蜂の巣本体の様子



収穫した蜂の巣を手にする農業組合のメンバーの村人



農業組合メンバーが、地域内の農場で肥料をまいている様子

「私は農業組合のメンバーのムレンダです。両親は養蜂を営んでおり、私が小さいころ、とても危険な伝統的方法でわずかな蜂蜜をとるのを見てきました。私が大人になってからも、地域は蜂蜜を必要としていましたが、私は養蜂に携わりたいとは思いませんでした。

農業組合に入ったある日、私はほかの農業組合のメンバーと一緒に養蜂についての技能強化研修を訓練士から受けました。私たちは最初の体験で10の巣箱を設置し、そこから40リットルの蜂蜜と2.6kgの蜜蝋、また20リットルの蜂蜜酒を収穫しました。蜂蜜は食薬であり、地域は地元でその供給が受けられるようになりました。このように技術を習得することができたことを今はうれしく思いますし、この活動を今後も続けていきたいと思っています」

教育プロジェクト

子どもたちの学習環境の整備と教師や父母委員会の能力強化

2013年度は、皆さまからのご支援によって、地域内の小学校計3つの教室が増設され、学習環境の整った中で学習ができる子どもたちが増えました。

また、教師を対象にした研修も強化されてきました。研修を通じて、教師たちが効果的な授業の組み立て方、学習教材を適切に利用することを学んだことにより、生徒たちはより楽しく授業内容を理解できるようになり、子どもたちも授業内容を理解できるようになりました。

さらに、14の父母委員会から成る学校マネジメント委員会の能力強化によって、子どもたちの出席の確認、授業プログラムの調査、学校施設の管理などが適切に行われるようになりました。



支援された教室で学ぶ生徒と教師

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

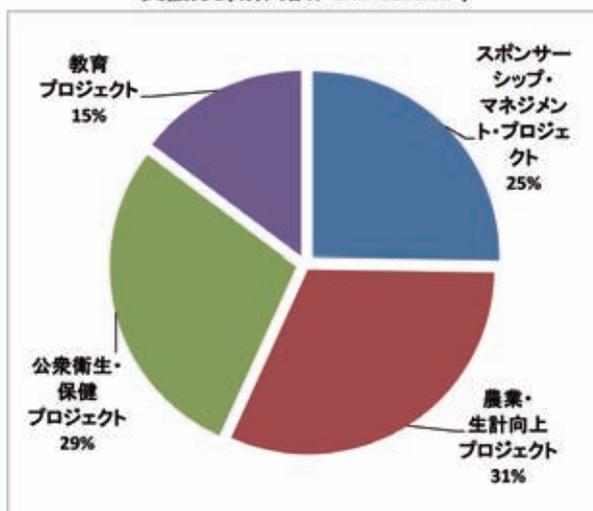
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	ZAR-185919 (単位:円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	58,019,193
当期支援額	58,019,193
前期繰越金	-4,485,846
プログラム支援額合計	53,533,347
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	14,512,961
農業・生計向上プロジェクト	18,098,134
公衆衛生・保健プロジェクト	16,385,379
教育プロジェクト	8,445,451
プログラム支出額合計	57,441,925
次期繰越額	-3,908,578

支援分野別内訳(ZAR-185919)



子どもの健康維持と意識啓発を続けています

2013年度、ADPでは子どもの疾病予防に努めてきました。はしかの予防接種やビタミンAの栄養補助剤の投与、メベンダゾール(大腸寄生虫の駆虫剤)による駆虫を行うなど、子どもの病気の予防を行ってきました。これにより、子どもたちは以前より抵抗力が増し、病気にかかりにくくなりました。

また、妊産婦や授乳中の女性たちは母乳育児や妊産婦健診などへの関心が高まりました。

これらを継続することで、子どもたちの健康が維持され、健やかに成長し、栄養不良の予防が確実になります。

HIV/エイズについて、カンボブ保健局の協力のもと、新たに15人の保健士が訓練を受けました。また、

カンボブ地域に4つある地域社会組織のメンバーを通じて、地域の人々の理解を深めることにも注力しました。地域の人々が正しい知識を身につけることで、PLWHA^{*}を偏見から守ることができます。

また、安全な水の利用と衛生についても意識啓発を行っています。特に、訓練を受けた地域社会組織のメンバーは家を一軒一軒まわり、トイレやゴミ捨て場の利用方法や、防虫加工された蚊帳の利用などのメッセージを伝えて回りました。これにより、地域での保健衛生の関心が高められました。

※PLWHA(People Living with HIV/AIDS)・・・HIV/エイズとともに生きる人々



ワールド・ビジョンの支援によって地域の小学校に設置された安全な水の水汲み場

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

プログラム近況報告

コンゴ民主共和国 トヨタ地域開発プログラム(ZAR-183280)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

トヨタ地域開発プログラム(以下、ADP)では、 農家30世帯で構成されている農業グループを支援しています

ADPでは、2013年度、計5ヘクタールの豆畑を作る支援を農業グループに対して行い、その結果、収穫時には3,000kgの豆を刈入れることができました。その内、1,500kgは30世帯に50kgずつ平等に各家庭に分けられ、500kgは翌年の作付に備えて保存され、1,000kgが市場に出されてUS\$1,100の収入を得ることができました。この収入で農業グループは水ポンプや園芸用の種(キャベツ、オクラ、トマト、アマランサス^{*}、ナスなど)を購入し、作物を栽培することができました。これらの作物を徐々に市場で売ることによって、各家庭では現金収入を得、子どもたちの学用品を購入したり学費に充てることができるようになりました。また旬には高値で売れる青トウモロコシを出荷用に栽培し、さらに自らの食用にもトウモロコシや豆を育てています。こうして各家庭では現金収入を得るだけでなく、1年を通して食料を確保できるようになりました。

農業グループの一員であるジャックさんはこう語ります。「トヨタ地域に対して、ワールド・ビジョン・ジャパンとその支援者の方々の温かいご支援に、心から感謝しています」

また、公衆衛生・保健プロジェクトでは、地域内の適切な場所に水汲み場を設置しました。水汲みの時間が、これまで1時間以上かかっていましたが、30分程度に短縮され、子どもたちが授業に集中して参加できるようになりました。

※タンパク質、カルシウム、鉄分などが多く含まれる栄養価が高い食品



農業グループメンバーであるジャックさんの農作業の様子



農作業で使用する水ポンプ



学校に行く前に水汲みする子どもたち

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサーさま

トヨタADPより、ご支援者の皆さまにごあいさつ申し上げます。皆さまからの支援により、学校や保健センター、井戸の建設が進み、農業・生計向上プロジェクトや、能力開発の活動が地域の人々の生活に変化を与えつつあります。

トヨタADPの子どもたちとその家族、そして地域の人々のために温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

ジャン・ルヴラ (トヨタADPマネージャー)



教育プロジェクト

2014年までに学齢に達している子どもたちの就学率を上げることを目標に、ADPでは教育環境の整備を行っています

2013年度、机の整った4教室が地域内に新たにできました。小学校では2012年の大風で吹き飛ばされていた3つの教室の屋根に、丈夫なトタン屋根をつけました。さらに、教員も新たに17人増え、地域で計60人の教員が、教育指導要領のもと教育水準の向上に努めています。

これらの結果、就学率は昨年度90%から今年度は92%に上がりました。また今年度は、トヨタ地域にある10校に通う614人が小学校課程の修了試験に合格することができました。

ADPではさらに地元政府や地域住民、小学校と協力

し、衛生教育にも力を入れています。学校での衛生環境整備も行い、トイレの後や手作業の後に手洗いをする習慣が身についてきました。

また、若者の職業訓練の一環として、運転免許の取得に力を入れました。教習所での訓練を経て20人が免許を取得し、地元の就職支援NGOを通じて職に就くことができました。



支援された教室で授業を受ける子どもたち



支援によって建設された校舎の外観

農業・生計向上プロジェクト

2014年度までに1,000世帯の食の安全の実現を目指しています

2013年度は、3つの農業グループに計15ヘクタールの豆の作付への支援を行いました。また7つのグループに養鶏の支援を行いました。

これらの支援を受けた世帯では、収穫した作物や育てた鶏を市場で売ることができ、家庭の収入が向上しました。さらに、10の農業グループから、33人のメンバーが、外部の農業専門機関による4カ月の現場実習に参加しました。この実習では、生産コストを適切な範囲に抑えるための利益計算、有機肥料の作り方、使い方、バイオ農薬など、豆類とキャベツの2種類の作物について役立つ技術知識を得ることができました。

100人を対象にした養魚池についての訓練を行った後、農業グループメンバー30人で技術支援に応じるために必要な20m四方の養魚池を掘りました。



農作業の手伝いをする子ども。農業支援を受けた家庭は、家計の収入が向上し、食料や学校で必要なものを購入できるようになりました。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

ZAR-183280

プログラム支援額

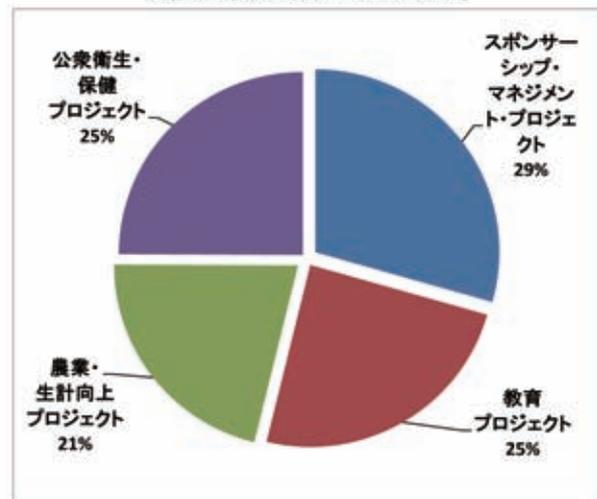
	(単位:円)
チャイルド・スポンサーシップ	67,543,418
当期支援額	67,543,418
前期繰越金	15,238,449
プログラム支援額合計	82,781,867

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	24,739,226
教育プロジェクト	20,541,388
農業・生計向上プロジェクト	17,869,835
公衆衛生・保健プロジェクト	20,976,152

プログラム支出額合計	84,126,601
次期繰越額	-1,344,734

支援分野別内訳(ZAR-183280)



公衆衛生・保健プロジェクト

2013年度は、子どもたちが健康に暮らし、 女性と乳幼児の栄養状態の改善に向けて、大きく前進しました

ADP内では定期妊産婦検診が普及し、未就学児童の健康診断の実施率が、大幅に向上しました。また、学校や家庭における手洗いの習慣が定着するなど、保健行政機関と教育行政機関が協力した相乗効果のおかげで、人々の考え方や行動様式が大きく変化してきています。

栄養面では、地域で実施された保健の啓発活動とADPの働きかけの相乗効果で、住民の意識が向上し、子どもがバランスのとれた食事を摂れるように、多様な食材を利用するなど、母親の考え方が変化してきました。これに伴い、地域の子どもたちが栄養不良から改善してきています。

市当局とADP内の地域の保健担当者の協力を得て、7,613人の子どもを対象に、HIV/エイズの感染防止

策について、しっかりとした知識を得られる機会を設けました。子どもたち自身が自らを守ること、またほかの人々への感染を防ぐことを学びました。



地域のヘルスセンターで健康診断を受ける子ども

チャイルド・ストーリー



スポンサーからの手紙を大切に持つチャイルドのデリックくん



自転車に乗っているデリックくん。家族の手伝いができるようになりました

「ぼくが成長報告に自転車の絵を書いたら、スポンサーからなぜぼくが自転車の絵を書いたのか質問がありました。スポンサーは、ぼくに自転車の乗り方を知っているかと聞いてくれて、それから自転車はとても便利な乗り物だということを説明してくれました。この後、興味を持つようになって、お父さんに自転車の乗り方を教えてもらいました。おかげで今は自転車にすいすいと乗ることができます。自転車に乗って水汲みに行ったり、自転車で製粉所まで行くなどお手伝いにも自転車を使っています」(チャイルドのデリック君の話)

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。